



日本語教室では熱心に学ぶ生徒の姿が強く印象に残った。



阿南の人と自然が好きだと話す、ALTのタジー・キャットマンさん（イギリス出身）

阿南市では22カ国から342人（9月現在）の外国籍の市民が、仕事、留学、技能実習、国際結婚などの理由で暮らしている。外国籍の市民が増える利点のひとつは、日常生活の中で多文化交流の機会が増え、相互理解の力強い手助けになることだ。

阿南市国際交流協会は、市民の国際理解を促進し、外国人に対する偏見や誤解のない国際化に対応するまちづくりに貢献することを目的に発足した。主な活動として、外国人にとって生活や職場の意思疎通に欠かせない日本語習得をサポートするため、毎週日曜、ひまわり会館で日本語教室を開く。今は10カ国から20人程の外国人が熱心に学んでいる。教室では日本の習慣や文化についても教え、外国人と交流したい方は誰でもサポーターとして参加できる。

ほかにも、親睦旅行や多国籍料理教室などを実施。参加者同士が互いに知り合え、日本の自然や文化に親しむことができる機会を作る。また、日本人対象の、ネイティブ講師による英語と中国語の語学教室も開かれている。



「日本で体験したこと」と題しスピーチする張 春禄さん



海陽町へのバス旅行。手前は阿南高専の留学生たち

去る9月9日、日本語教室の生徒による弁論大会が開催された。市内企業で働く張 春禄さん（中国出身・30歳）は、来日当時は日本語が全く話せなかったが、1日も欠かさず教室に通い、弁論大会で優勝。スピーチでは、阿南で暮らし日本人と接して、中国のテレビや新聞では得られない良い日本の印象を持つようになったと語った。張さんは「日本語教師の米山健作さんは日本の父のような存在だ」と感謝の意を表す。

田村澄香さん（日本語教師）は、「相手への共感や互いの文化の理解で距離が近づき友情が育ちます。多くの方に日本語教室やイベントへ参加していただきたいです」と思いを語る。

阿南市国際交流協会は2020年で創立30周年を迎える。阿南に暮らす市民同士が国籍を超えて互いの文化に興味を持ち、それを自分の知恵にしていくような国際交流をめざしている。

本会や日本語教室への参加など、お気軽にご相談ください。☎ 阿南市国際交流協会事務局（0880-2973-11460）へ